

被災者のマナー 3

被災者は何を見たか・感じたか

東北大学防災科学研究拠点

阿部恒之(文学研究科心理学講座)

本多明生(電気通信研究所)

ジューターチップ・W.(文学研究科心理学講座)

1ヵ月後緊急報告会

被災者のマナー 被災後の生活と治安

避難者の節度あるふるまい
海外からの称賛

FRUIT MEAT

Nourish your life!

新
OPEN



2011-3-25

3ヵ月後緊急報告会

被災者のマナー 2

被災時の混乱と助け合い

自発的な助け合い
犯罪抑制傾向

I山さんの日記より

3月13日(日)

ご近所のN井さんからの差し入れ・・・水(ポリタンク)、ご飯、お茶、ヨーグルト、梅干し、りんご、野菜ジュース

ご近所のI川さんからの差し入れ・・・鮭、みかん、りんご、バナナ、味噌汁、乾パン、お漬け物

3月15日(火)

ご近所のN井さんより、食品館イトーが開店しているとの情報。行ってみたら長蛇の列。2時間並ぶ。・・・(略)・・・**普段どこの店舗でもなかなかない位の底値に、お店の思いやり**を強く感じる。

I垣さんの日記より

3/13

07:00	の実家に歩いて出発。女性に声をかけられる。 <u>食料、22軒も53</u>
10:00	実家に到着。全員の無事確認!! <u>車でおくると言われたが、近くなのでこわく</u>

仙台市内1～4月の治安情勢・前年との比較

	認知件数	増減	増減率
刑法犯計	3350	-302	-8.3
凶悪犯	21	2	10.5
粗暴犯	139	-13	-8.6
窃盗犯	2577	-87	-3.3
知能犯	100	-121	-54.8
風俗犯	21	-14	-40.0
その他	492	-69	-12.3

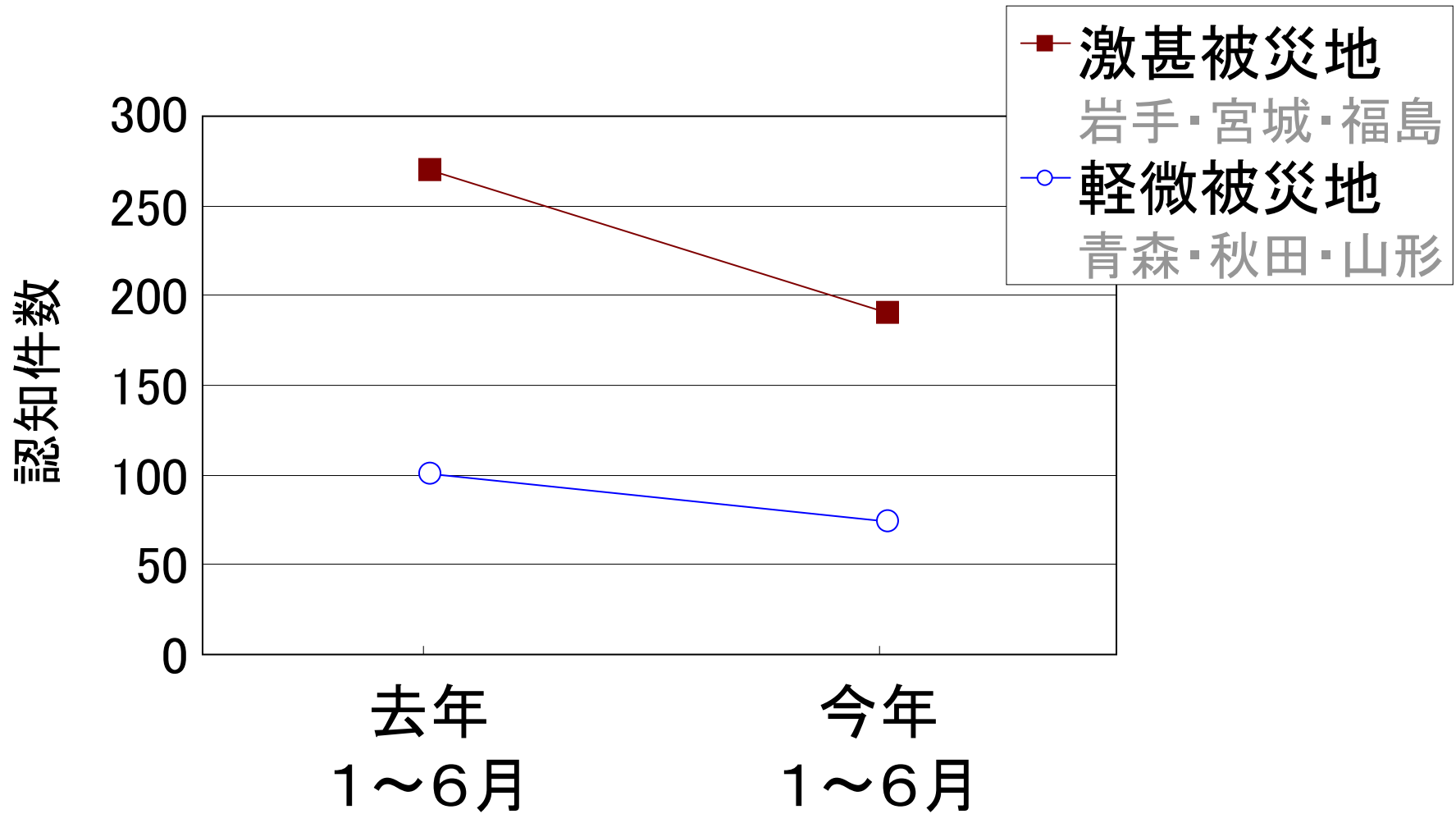
本日、6ヵ月後報告会の内容

1.犯罪傾向の被災程度による比較

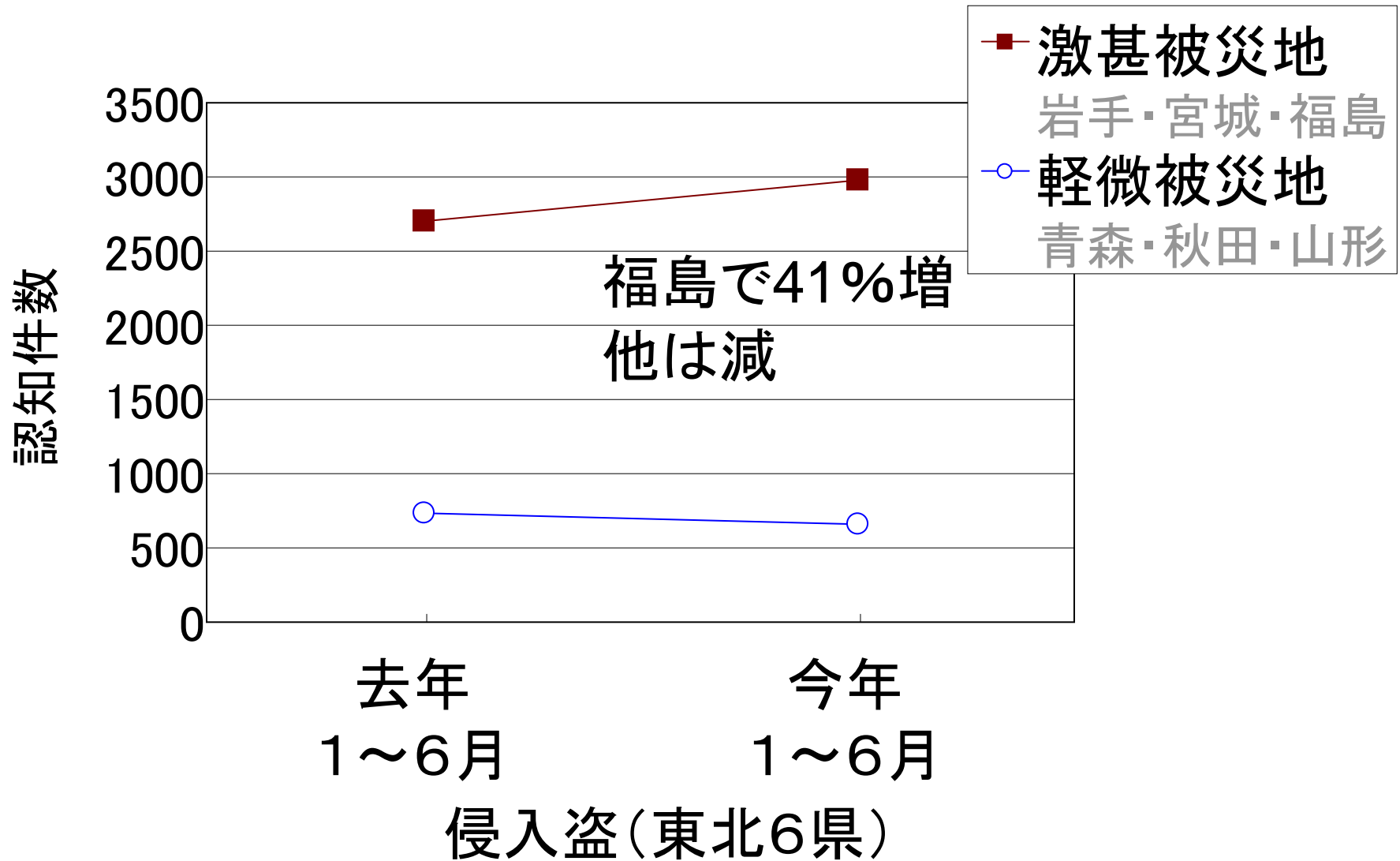
2.被災時の変化をどう感じたか

3.節度あるふるまいの元は何か

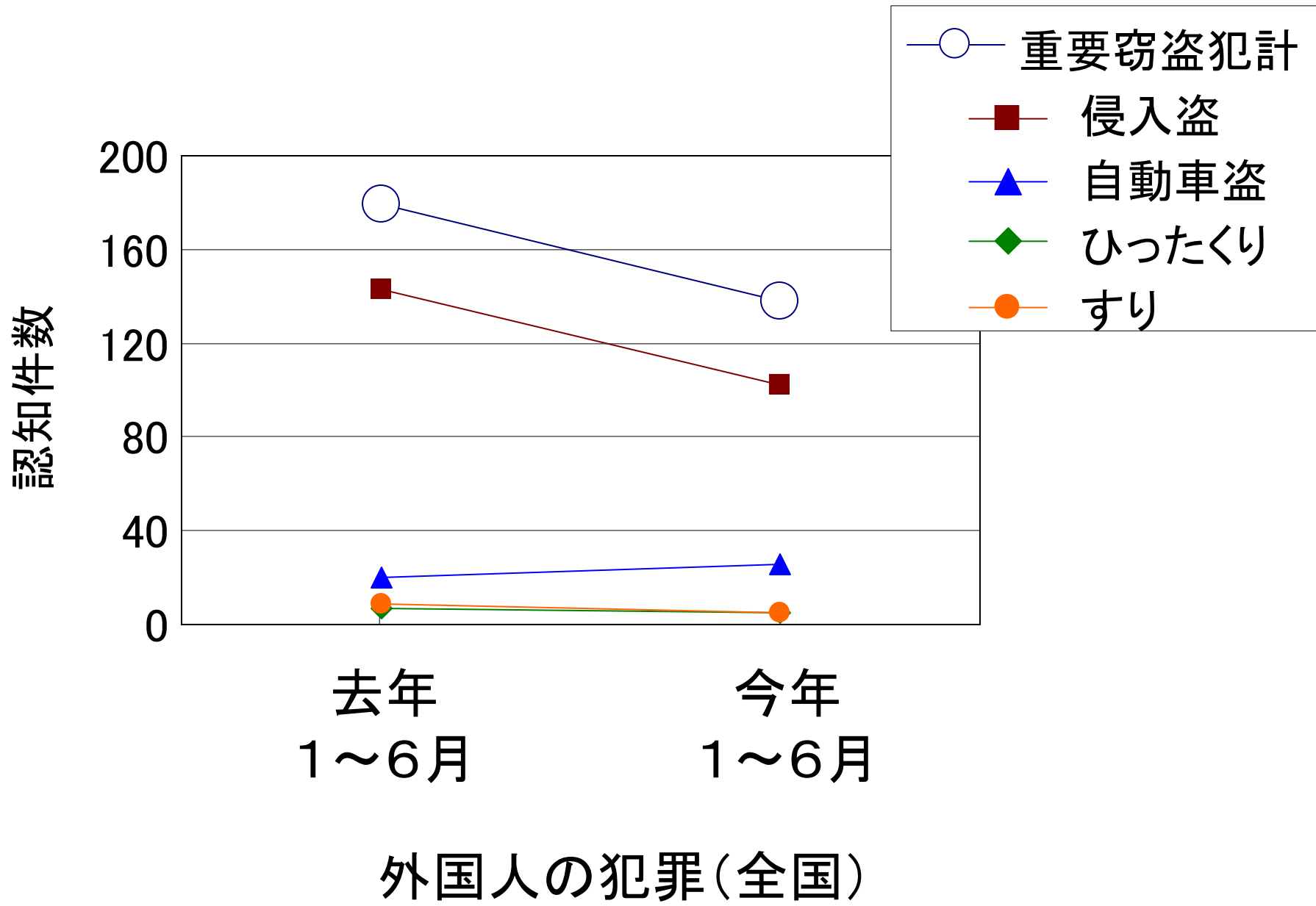
1.犯罪傾向の被災程度による比較



重要犯罪・窃盗犯(東北6県)

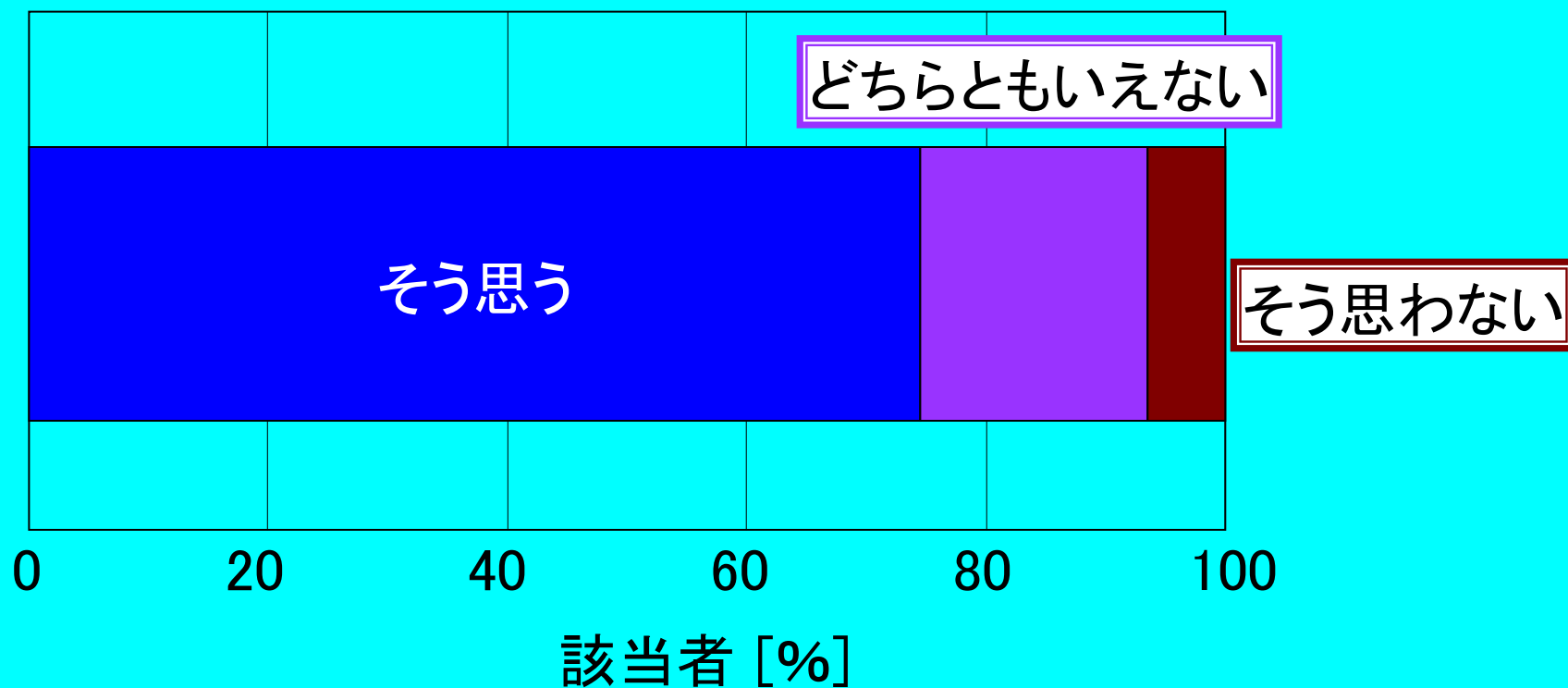


福島第一原子力発電所20キロ圏内で確認された侵入盗被害:前年同期の27倍の722件。8/末, 警察庁まとめ



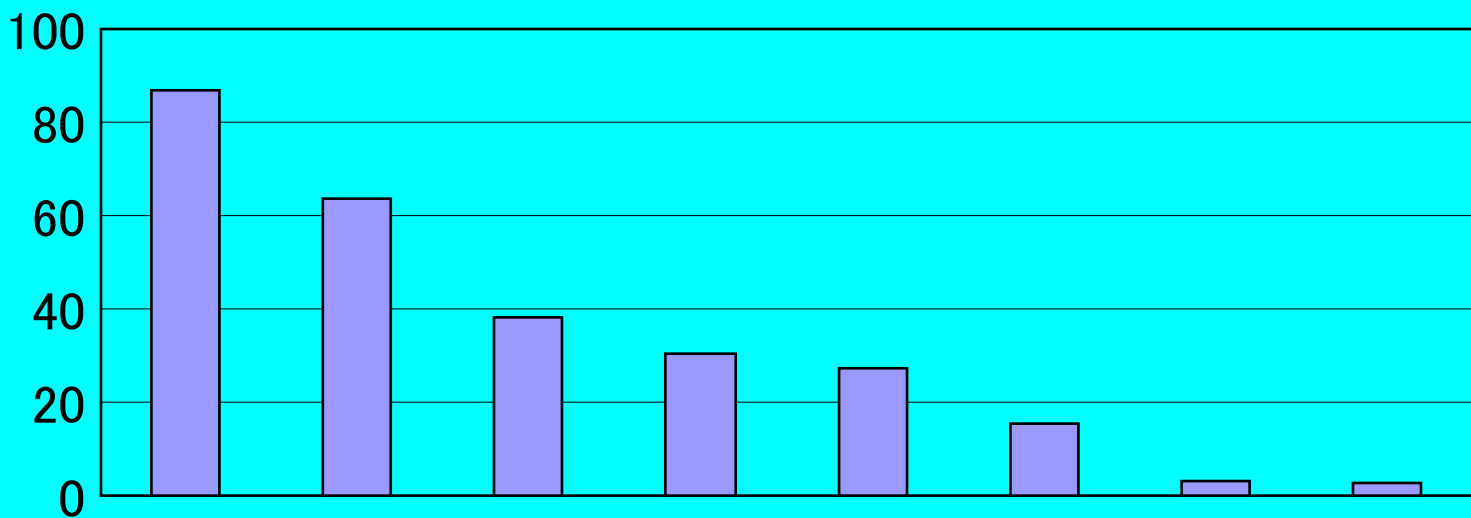
外国人の犯罪(全国)

「阪神淡路大震災では、震災後にもかかわらず比較的犯罪が少なかったという意見について、あなた自身はどう思いますか」
(被災地区の自治会長569名の回答)



阪神淡路大震災における治安感情

「そう思う」回答者中の
該当者「%」



被災者同士や人々の
連帯・助け合いが強まった

食糧や水の補給が
迅速に行われた

潜在的犯罪者も
被災していた

自衛隊や警察が
大勢出動していた

地域での防犯活動が
有効であった

交通麻痺で外部から
犯罪者が入りにくかった

メディアのキャンペーン

犯罪防止に関する

その他

阪神淡路大震災における治安維持の原因

2.被災時の変化をどう感じたか

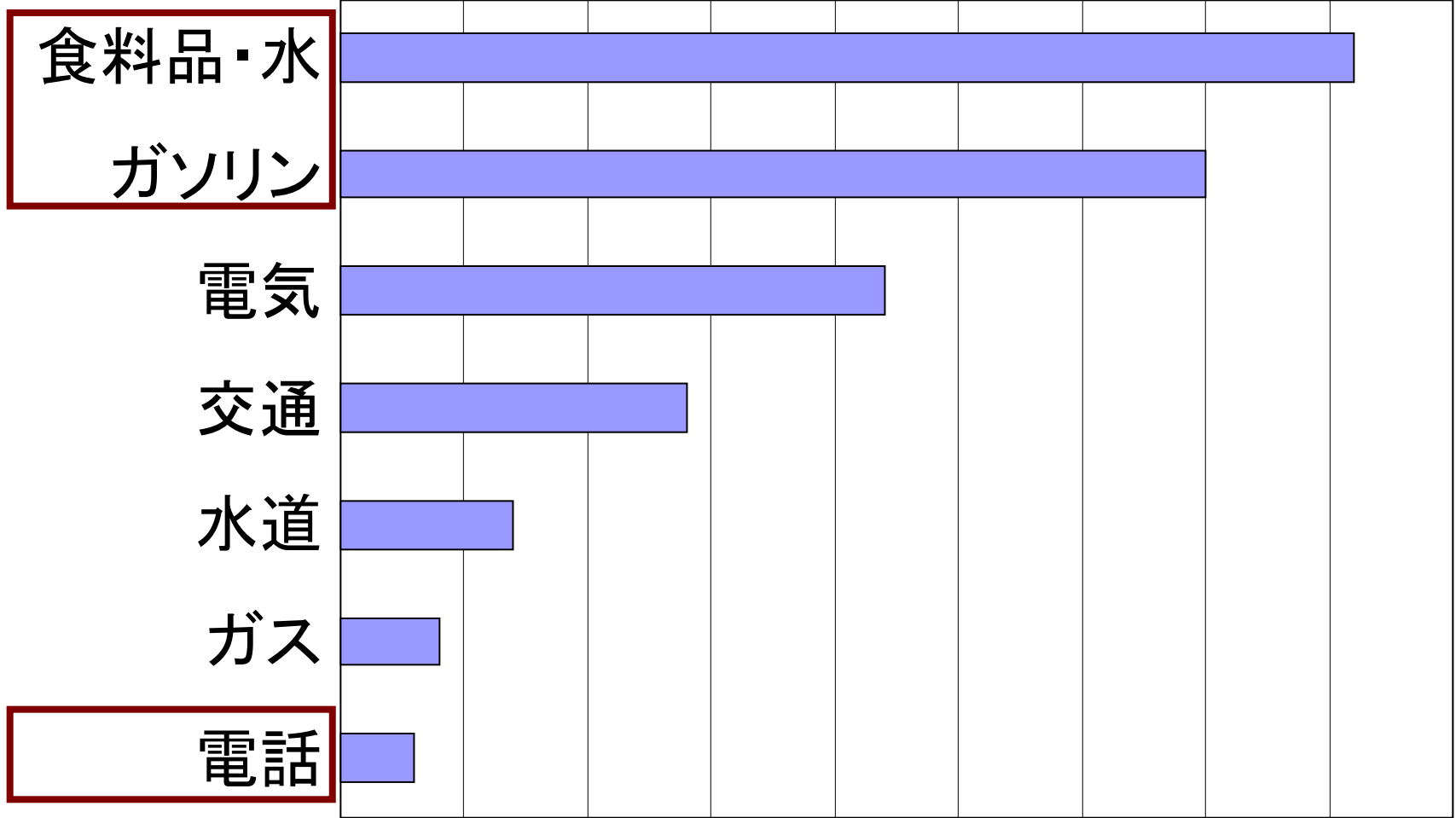
宮城県の大学生・市民講座の聴講生162名に質問 「震災時、ふだんと違うと感じた体験を教えてください」

いつ	どこで	誰が	どうした・どうなっていた
<p>3/12 夜</p> <p>3/13 ~</p>	<p>アーケード街</p>	<p>3/12 夜は主に若者</p> <p>3/13 ~ は若者だけでなく 中年や高齢者も</p>	<p>街中の看板用等の 外に出ているコンセントから 携帯電話等の充電をしていた (タコ足を持ってきて、通りかかった 人にも使わせていたりもした。)</p>
			<p>↑</p> <p>※無断で使っている人が 多いように見受けられたが、 店の人が使わせているよう な場所も多数あった。</p>

計515個の回答を分類

カウント数

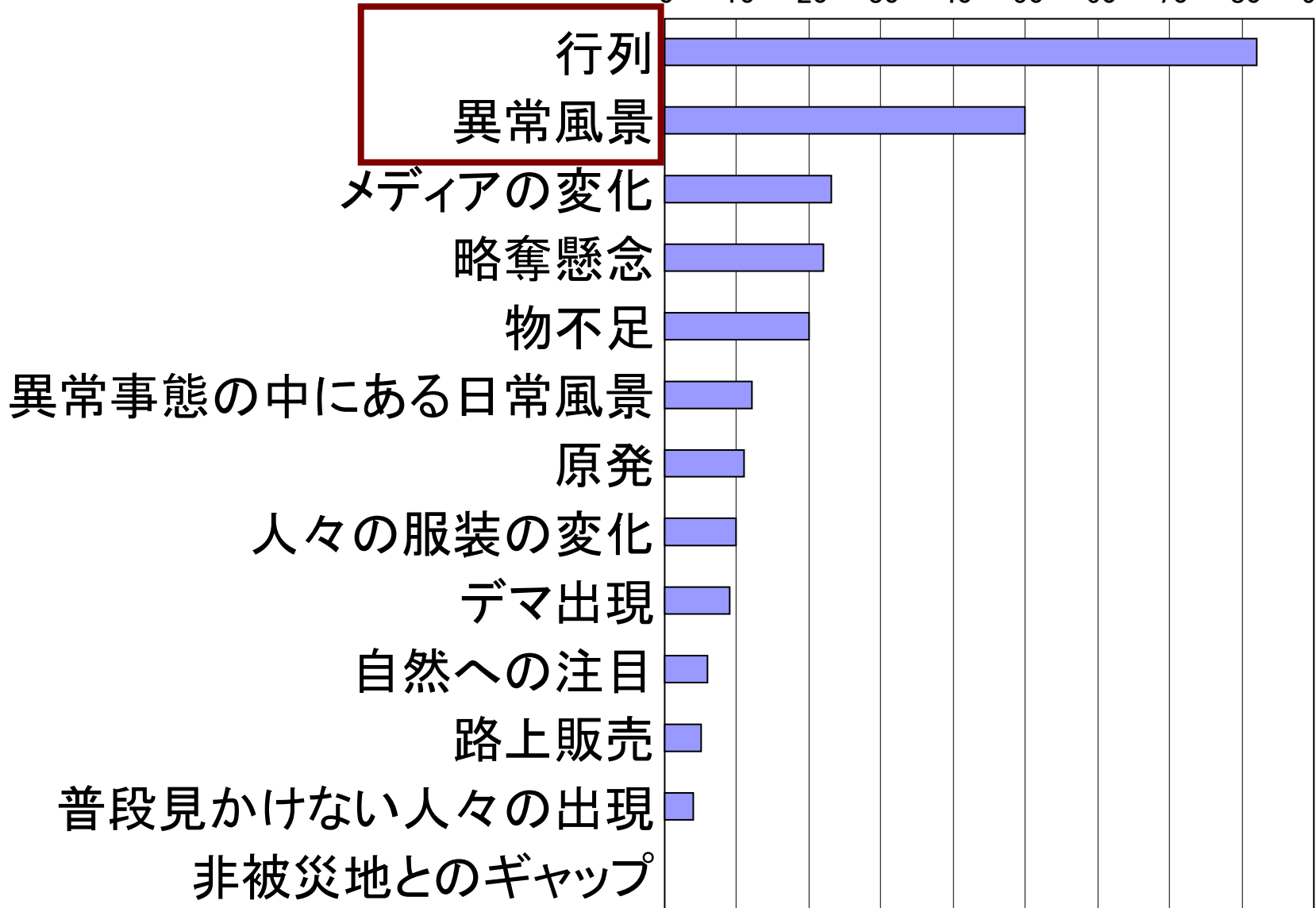
0 5 10 15 20 25 30 35 40 45



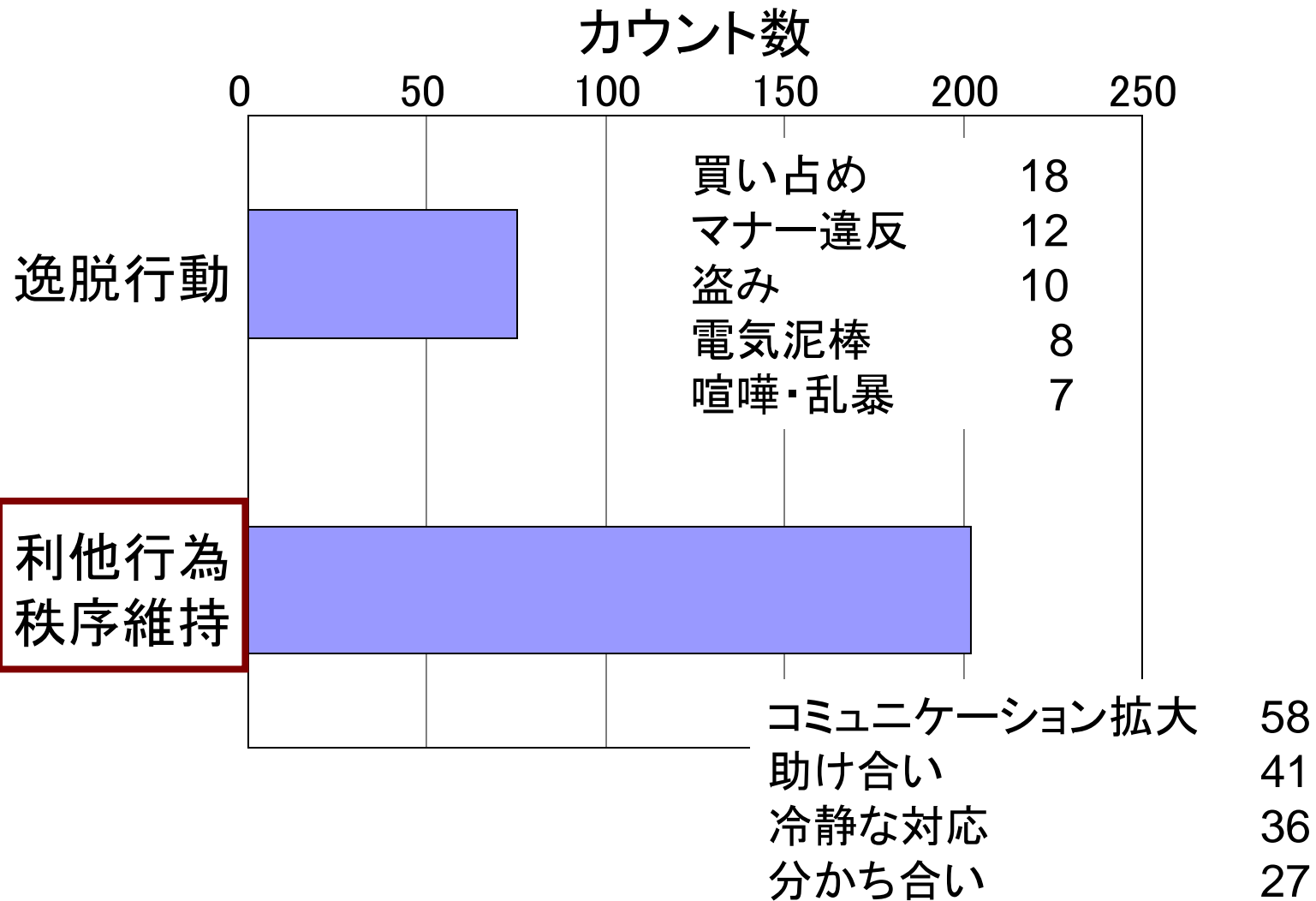
ライフライン

カウント数

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90



社会的変化



逸脱行動と望ましい行動

カウント数

0 2 4 6 8 10 12 14 16 18

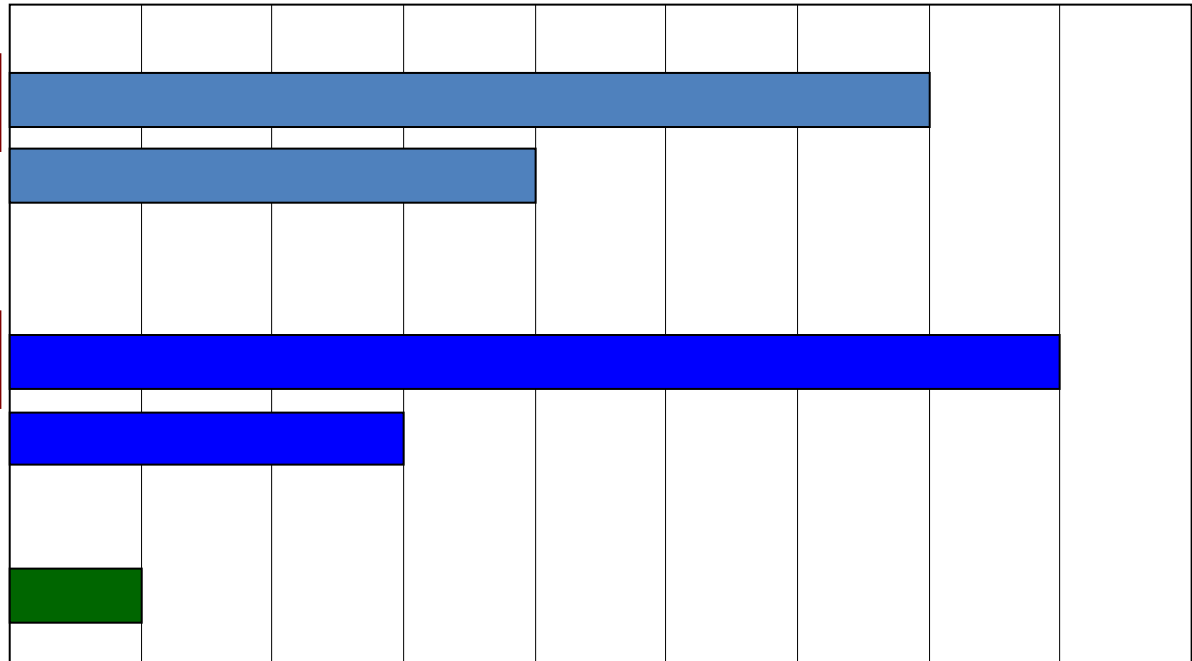
感覚の鋭敏化

// 鈍磨化

ポジティブ感情

ネガティブ //

病状悪化



心身の変化

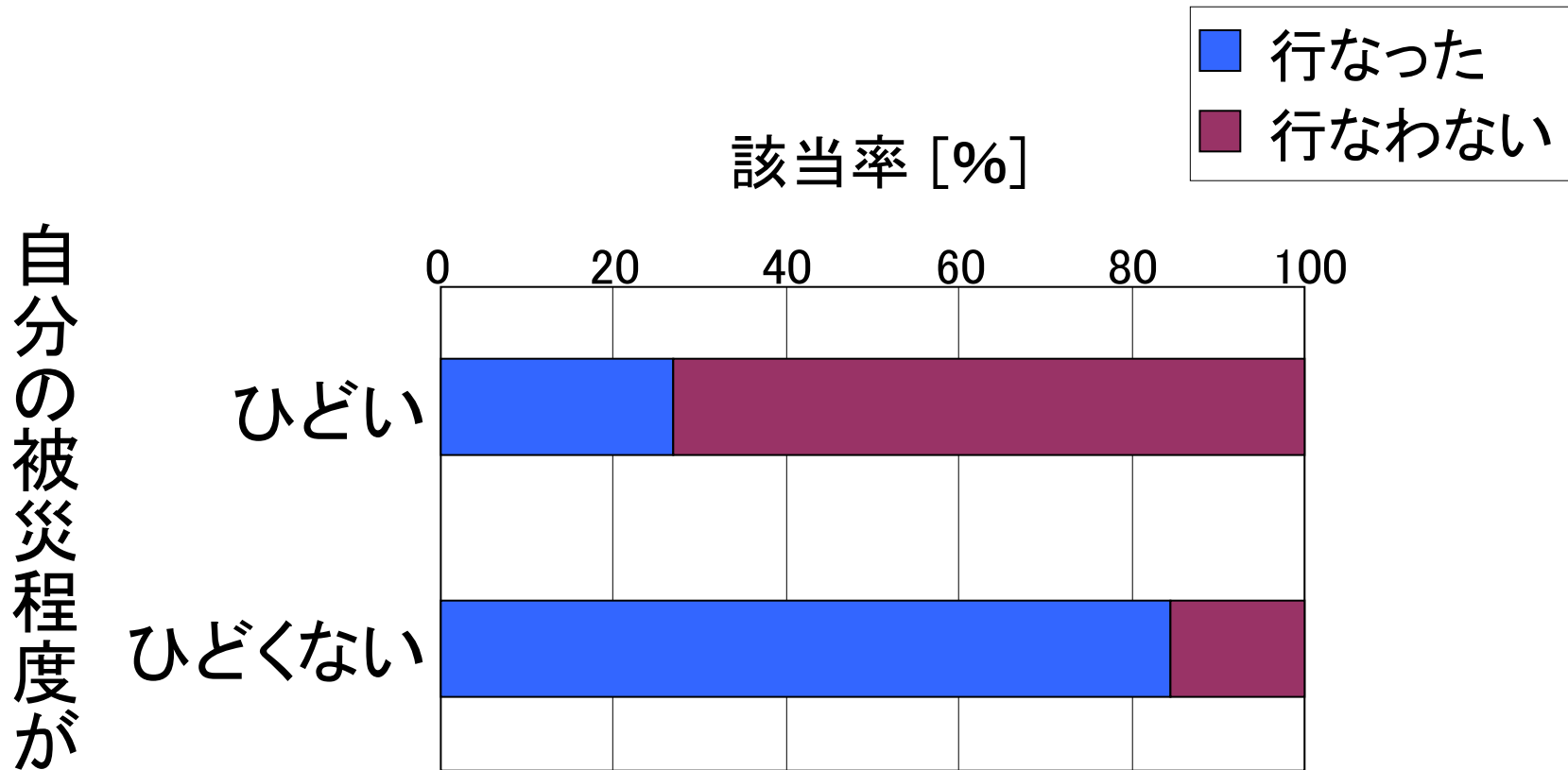
<p>3/12 20:00</p>	<p>寮の敷地内 (屋外)</p>	<p>入居者の人たち</p>	<p>外で芋煮様の炭火を使って 火をおこし、1つの鍋から10人くらいが 2食分くらいのラーメンを順番に食べた。 その時、星がすごくきゅいで、 一瞬だけ幸せな気分になった。</p>
-----------------------	-----------------------	----------------	---

大変な思いをしながらも、積極的な側面に目を向けていた。

<p>震災直後</p>	<p>実家の市 (茨城県北部)</p>	<p>市民</p>	<p>停電により電気が止まり、信号が使え なくなっていた。普段なら道路について 決いて譲り合いなどは起こらないのに、 みんな譲り合って、信号がある時よりも かえって交通の流れは良いのではない かという程だった。</p>
<p>震災直後</p>	<p>実家</p>	<p>近所の人</p>	<p>普段はほとんど関わりのなかった人だった が、地震の直後、節達の事をとても 心配してくれた。水が出る場所など といった情報をお互い共有し合ったり もした。</p>

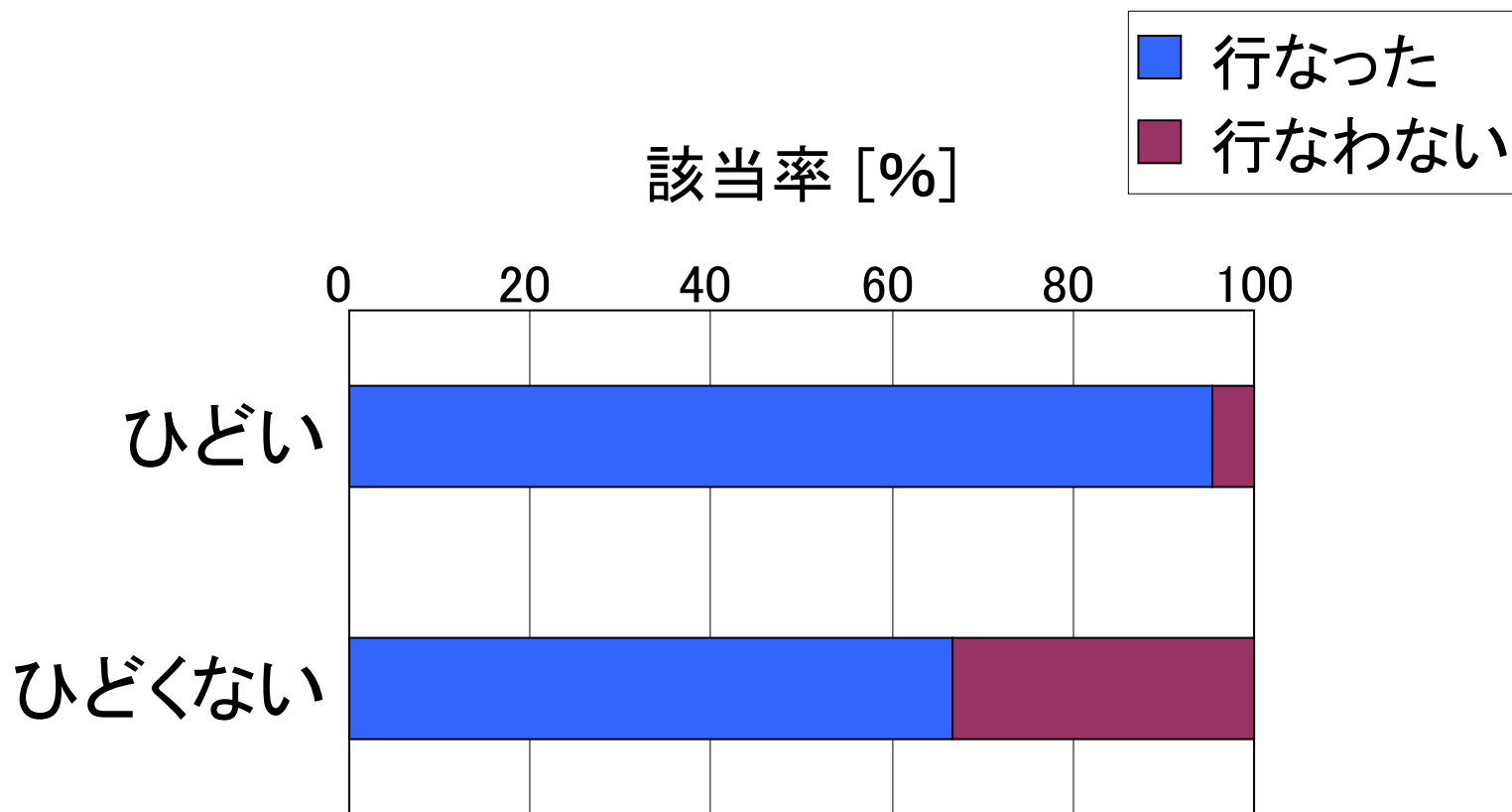
3. 節度あるふるまいの元は何か

被災地域学生107名のアンケート



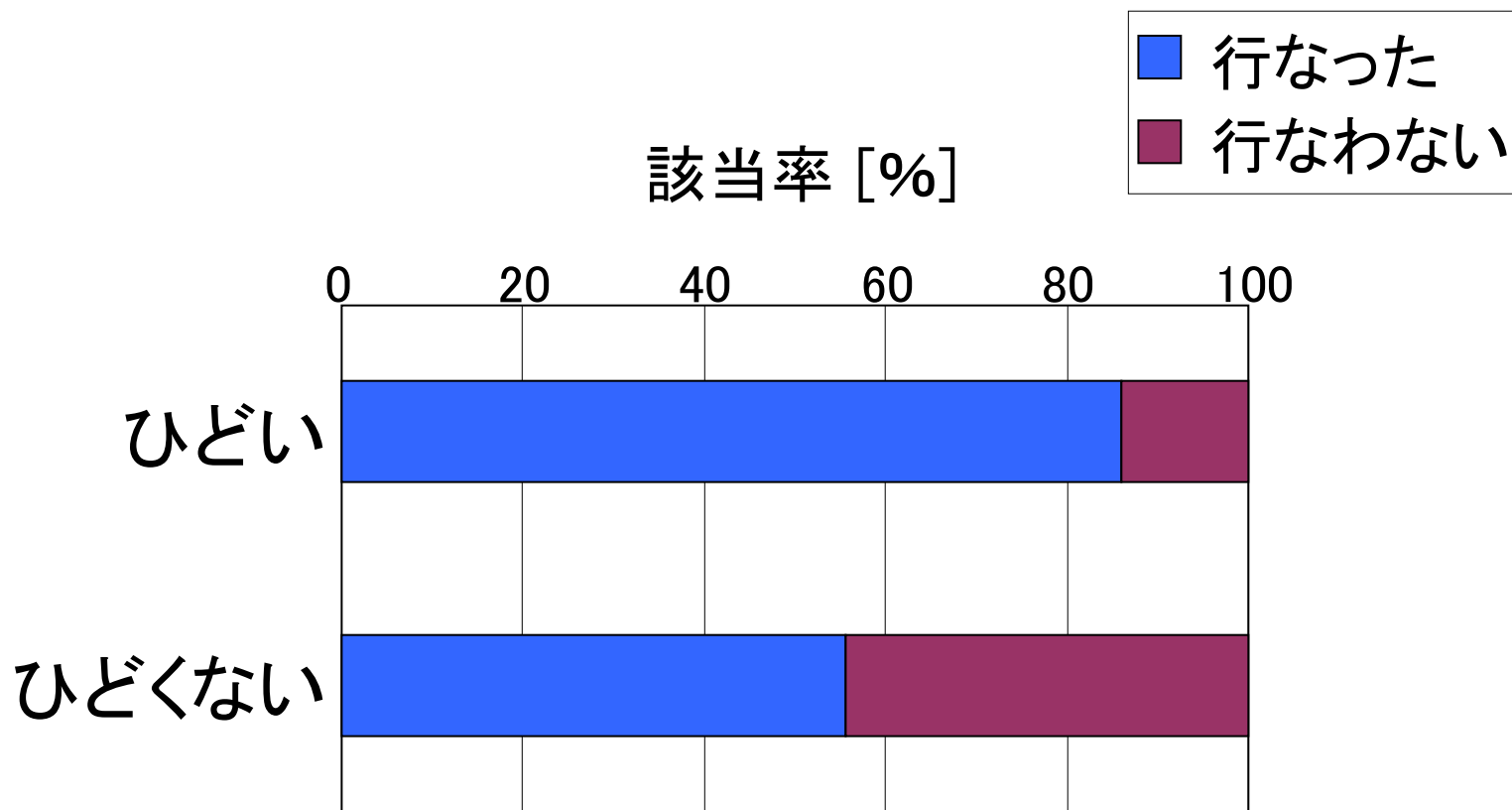
自身の被災程度とボランティア活動

友人の被災程度が



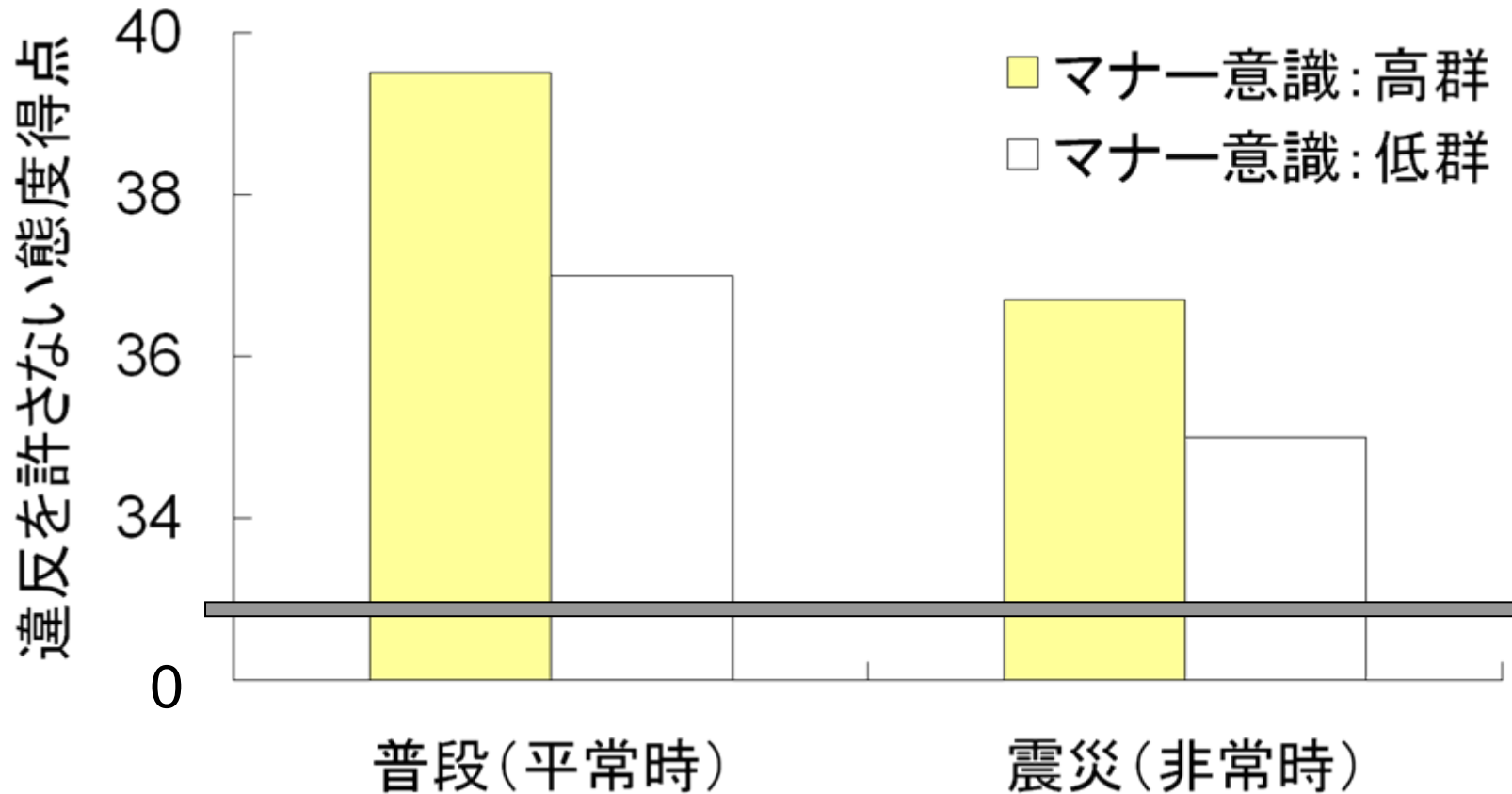
友人の被災程度と情報の助け合い

友人の被災程度が



友人の被災程度と食料の助け合い

非常時には違反に甘くなる
日常のマナー意識が高い⇒違反に厳しい



日常のマナー意識と違反への態度

自ら被災しながらもボランティア

被災の程度が少ないほうが高い実施率

友人の被災が助け合いのきっかけに

⇒思いやりの発端は身近なところに

非常時は規則を割り引いて考える

しかし非常時にも日常のマナーが反映

まとめ

安全

助け合い

思いやり

非常時だからこそ

非常時だけど

被災時のマナー

日常生活のマナー